

INSIDE-OUT

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233



木二中 学校だより No.27 令和5年11月13日 E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
校長 山元 竜二 https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j

校長推薦可否に係る3年生徒との二者面談 ～受験生へ～

9月8日付、INSIDE OUT No.17『私立高校前期入試「推薦」の意味を考える』で、

『中学校における学校長推薦とは、その生徒が持つ大いなる可能性を約束するもの。「推薦」ではなくて、15歳の若者が持つ無限の可能性の「証明」、「約束」、そして次なるステージへ向けての「期待」です。校長先生の印鑑には、君たちに関わったすべての先生方のそんな思いが込められているものであると私は考えています。そんな先生方の思いに応えるのは、「今」であり、君たちの目の前に広がる無限の「未来」ではないだろうか。』

と記しました。

私立高校前期入試まで残り2ヶ月となった今、木更津第二中学校では、推薦の可否に向けて私立高校を受験するすべての3年生一人一人と校長が二者面談を行っているところです。私が一人一人に尋ねる質問はいたってシンプル。

- ①第一志望校の志望理由は？
- ②高校卒業後の進路はどう考えている？
- ③最終的にどんな職業に就きたい？

なかなか生徒と直接話をする機会が少ない私にとって、わずか3～5分と短い時間ではありましたが、3年生一人一人と将来について話をするこの二者面談がとても楽しい時間となりました。日頃校長と話をすることがない生徒にとって「楽しい時間だった。」と言うのはいささか失礼かと思いますが（みんなものすごく緊張していたので）、無限の可能性を持つ若者たちの将来の話を知っている私がわくわくしてしまうほどでした。

世界を一周できるような国際的な仕事に就きたい、子どもから大人まで年齢に関係なく楽しめるようなソフトウェアを開発したい、自身が入院した経験を生かして医療系の仕事に就きたい、得意な英語を生かして翻訳の仕事に就きたい、絵を描くことが好きなので、それが仕事にできればいいな（イラストレーター）などなど。

もちろん「将来の夢も、職業もまだ考えていません。」という生徒もたくさんいました。私は決してそれを否定はしたりしませんし、「夢を持ちなさい。」とか「将来の職業を考えなさい。」などとは言ったりしません。中学校を卒業している人たちと出会って、いろんな経験をして、その中で自分自身を見つめ直して適正を考えていけばいい。そのように一人一人に伝えました。

もう一つ、3年生のみんなには、これだけは伝えておきます。高校受験は、「合格」がゴールではありません。「合格」はあくまで「スタート地点に立つ権利」が与えられるのであって、高校受験の終わりでも何でもありません。また、高校での3年間は、長い人生の通過点に過ぎず、高校での3年間を生かしてどのような人生を歩んでいくのが最も大切なことであると私は考えています。

今週、13日以降も3年生一人一人との校長面談が予定されています。その目的は、校長推薦の可否となるので3年生にとってみれば緊張の時間になるかもしれませんが、志望理由や将来の夢、自分の思いの丈を私に話してほしい。欠席日数だったり、遅刻回数だったり、各私立高校から示される校長推薦の条件があつて、当然それをクリアしていなければ推薦は難しいのかもしれないけど、高校入試に向けた今の考えを、将来に対する思いを語ってほしいと思います。

推薦されるとか、推薦されないとか、そんな小さなことを気にするよりもみんなの眼差しが大いなる未来へと向かっていること、それこそが何よりも大切なことだと思うのです。

「社会的淘汰」[しゃかいてきとうた]

— それでもまだあなたは不適切なコンテンツを無作為に投稿しますか? —

中学生のみんなは、「淘汰」[とうた]という言葉とその意味も含めて知っていますか? 「淘汰」という言葉を調べると、

- 淘汰[とうた]: ①水で洗ってより分けること。転じて不必要なもの、不適當なものを除き去ること。
②環境に適応した生物が子孫を残し、他は滅びる現象。選択。
③流水や風による運搬の過程で、堆積物[たいせきぶつ]が粒径・形状・比重などに応じて選別される現象。

と辞書に記されています。さらに、「淘汰」には「自然淘汰」と「人為的淘汰」があり、「自然淘汰」は、地球環境に適応できたものが変化しながら生き残り、新たな種が生じるといったもの。一方、「人為的淘汰」は、ある生物集団から望ましい個体だけを選別し、そこから種を育成するというもの、なんだそうです。

私にはこの言葉について他に「社会的淘汰」という別の解釈があって、文字通り現代社会を生きる私たちに当てはめて考えた場合、社会のルールやモラル、いわゆる社会通念[しゃかいつうねん=社会一般に通用している常識または見解のこと]に反する者が選別、淘汰されていくというものです。

現在、本校では、SNSを通じた不適切な言葉や画像の投稿が大きな問題となっています。INSIDE OUT No. 21でネットリテラシーについてお伝えしました。また事あるごとに情報モラル教育を実施してきました。しかしながら、SNSに関するトラブルが後を絶たないのが現実です。

厳しいことを記します。SNSを通じて不適切なやり取りをしたり、不適切な画像を投稿したりする者は、近い将来必ず社会的に淘汰されていきます。誰にも相手にされなくなるくらいならまだいい方。人生を棒に振ることになるということをみんなには理解してほしい。

中学卒業後、大学進学を考えている人ならあと7年後。高校卒業後ならあと3年後。いずれ君たちは就職活動、いわゆる就活の時期を迎えることとなります。ある企業に内定していた学生が、SNSが原因で内定が取り消されたというニュースを聞いたことがあるという人もいるでしょう。どういうことかわかりますか? 中学生のみんなにも理解できるよう具体的に説明します。

就職試験は当然、人柄が重視されます。しかし、わずか数分の面接でその人柄まではわからないもの。コロナによりオンラインでの選考が主流になってきたこともあるでしょう。そんなことは企業の採用担当者だって百も承知しています。では、企業の採用担当者は、就活生の人柄をどのような手段で把握しようとしているのか? 答えは簡単、就活生が利用しているSNSです。実際に現在数多くの企業が就活生のSNSをチェックしているそうです。

企業の採用担当者が就活生のSNSについて何をチェックしているのかというと、SNS上で交流のある就活生の「友だち」と「投稿内容」。これは、どんな人たちと関わっているのか、またどんな投稿をしているのか、SNS上でどんな言葉遣い、どんな会話をしているのかを見られるということです。投稿内容に関しては、過去に遡って調べられるだけでなく、過去にどんな画像を投稿したのかも見られることにもなります。さらには、就活生がどんなコンテンツに「いいね」をしたか、どんなコンテンツをフォローしているのかまで調べ上げられるというから驚きです。

これを読んで、就活の時期がきたら「SNSのアカウントを一時的に削除すればいい。」とか、「携帯電話そのものを変えてしまえばいい。」とか、「投稿した不適切な画像は削除すればいい。」と考える人がいるかもしれません。でもそれはすべて無駄なこと。なぜなら、過去に遡ってまで調べるのは、企業の採用担当者ではなく、企業が調査会社に莫大なお金を支払ってまで調査を依頼しているからです。2021年の時点で調査会社に就活生のSNSに関して調査を依頼した企業は、400を超えたとも言われています。調査を専門とする会社が調査するわけですから、アカウントの削除も、携帯電話の買い換えも、不適切な投稿や削除であっても、ネット上の記録として残される以上、簡単に調べられてしまうということになります。そしてもう一つ。「裏アカ調査」といって、裏アカの特定を専門とする調査会社もあって、多くの企業が調査依頼をしているとのこと。もはやネット上には「匿名」なんてないのも同然であるということをしかりと理解しておかなければなりません。

自分自身の身を守るのは他の誰でもない自分自身だけ。自身のネットリテラシーを向上させる他に方法はない。不適切な投稿をする人に通告します。社会的淘汰される覚悟はありますか? それでもまだあなたは不適切なコンテンツを無作為に投稿しますか?